

報
民
市
リポーター
だより
④

『百聞は一見にしかず』

シルバー人材センター

昭和五十五年十月、県内の先駆けとして発足した大館市シルバー人材センター(現在は他に五カ所)。高齢者に、その豊富な経験と貴重な能力を生かした社会参加の機会を提供し、豊かな福祉と活力ある地域社会づくりを推進することを目的としています。

今回は、同センターを訪問し、その実情について取材しました。

大いなる期待

センターの事務所は、字三ノ丸にあり、旧大館警察署の道場を改装したものです。いかにも狭く、古めかしい建物ですが、会員等の来訪や電話応対が引きも切らない、活気に満ちた雰囲気は好感が持てます。

元年度の事業実績は、受注件数約三千八百件、就労延べ人員約三万五千人、契約金額約一億二千六百万円とのことで、事務費や材料費などの実費を差し引いた約一億八百万円は、すべて配分金(仕事の対価)として会員へ支払われたそうです。

今年度の事業計画では、四百

人の会員確保(七月末日現在の

会員数三百三十三人、うち女性六十七人)、事業の普及・啓発活動、就業機会(受注)拡大、知識技能の向上、会員の健康管理と作業の安全、無料職業紹介事業の推進、さらにセンター設立十周年記念事業の実施などを掲げ、意欲的に取り組んでいます。

事業内容やその取り組み方をみても、関係者が同センターに寄せる期待はたいへん大きなものがあるように思われます。

課題は会員確保

「高齢者(原則として六十歳以上)で働く意欲のある人、また、いろいろな仕事の依頼をいつでも歓迎します。初めは何となくこのセンターに寄り付きにくかったという人もけっこういるんですが、やっぱり相談してよかったと喜んでもらえるたびに、センターをもっともっと多くの人に知って欲しいものだと思います。いつでも気軽に、お越しいただくなり、ご連絡いただければ……」と、事務局長の細川さんは「百聞は一見にしかず」の

意義を強調されていました。

そこで次に、同センターの運営について具体的に伺ってみました。

△入会とは?

いつでも受け付けています。手続きも簡単に済みます。

△会員になると?

会員の希望職種等を勘案して、一応の仕事の割り当てをします。そして、仕事の日時、内容等を事前に電話連絡して、了解を得たうえで就労してもらいます。期間的に一定の義務拘束を受ける、いわゆる再就職のような体制で

はなく、その都度本人の都合や意思を確認し、尊重したうえで就労してもらうのが、センターの特色です。

また、年二回の総会、研修会や親睦会等の諸行事を開催し、会員相互の交流も図っています。

△報酬や補償は?

仕事の代金は、就労に伴う配分金という形で、翌月十日に支払われます。また、万一就労中にけがをした場合は、団体傷害保険が適用され、保険の掛け金はセンターが負担しています。

△地域的組織は?

市内各地に地域班(現在二十三班)を設け、それぞれが親睦交流、情報伝達の間として機能しています。班員互選による班長には、事務局とのパイプ役などをお願いしています。

▽専門的な仕事の場合は?

庭木の剪定、塗装、大工仕事など、専門的なものについては、希望会員に毎年数回、技能訓練を実施していて、たいへん好評です。こうした訓練、講習会などを随時企画し、会員の技能を広げ、広範なニーズに積極的に応えたいと思っています。

▽仕事を依頼するには?

一般家庭や企業等、どこからの依頼も常時引き受けています。また、臨時的、短期的な雇用の要望があれば、無料で職業紹介もしています。ほとんどの依頼に対応できますので、センターへご連絡ください。

▽今後の課題は?

「生活の安定、好況下での人手不足等の事情を反映してか、会員数は漸減の傾向にあります。女性会員数の比率も、他のセンターと比べて大分低いようです。広く社会的要請にこたえ得る体制の基盤として、この会員数の充足が当面の主要課題です。また、老朽化、狭隘といふことで、会員や関係者にご不便をおかけしている事務所の改修に、総力を傾けて取り組む考えです」と、会長の佐々木さんは情熱的に抱負を話してくれました。

高齢化が進む中、センターの役割りは今後ますます大きくなるものと思います。関係各位の一層のご活躍の期待しています。

広報市民リポーター

島内国男(大町)



▲左から細川事務局長、佐々木会長、島内リポーター